



トラブルシューティング

この章では、UCS-SCU アプリケーションの使用時に利用可能なさまざまなトラブルシューティング オプションを示します。

UCS-SCU 問題および解決方法

- OS のインストール プロセスが中断され、サーバがリブートする。
ウォッチドッグ タイマーの値を決定します。ウォッチドッグ タイマーは、C シリーズ サーバの BIOS の新機能です。この機能がイネーブルで、値が OS のインストールに必要な時間よりも短い期間に設定されていると、OS のインストール プロセスは中断されます。このウォッチドッグ タイマー機能は、指定された期間後に自動的にサーバをリブートするか、電源をオフにします。OS のインストール プロセスを開始する前に、ウォッチドッグ タイマー機能をディセーブルにします。
- 仮想 USB をマッピングするか、物理的な USB を接続した後でも、UCS-SCU で次のメッセージが表示される。

No USB Disk on Key detected

- vmedia を通じてマッピングした USB デバイスについては、vmedia GUI から [USB reset] の選択を試みます ([virtual media session] -> [details] -> [USB reset])
- 物理的な USB デバイスについては、ベンダーおよび製品情報を確認するか、異なるデバイスを試みます。
- Windows OS をインストールした後、KVM マウスが動作せず、Windows デバイス マネージャで、USB ヒューマン インターフェイス デバイスに黄色の「!」が表示される。
CMC のバージョンを確認します。サーバに最新版の CMC がインストールされていることを確認します。
- Windows のインストールが失敗し、次のメッセージが表示される。

Selected disk has MBR partition table. On EFI systems, Windows can only be installed to GPT disks.

- 仮想ドライブの EFI CD-ROM デバイスが、Windows 2008 イメージのブートに使用されました。BIOS の CD-ROM 順から CD-ROM デバイスを使用します。
- UCS-SCU を通じて Windows オペレーティング システムをインストールした後、Windows デバイス マネージャで一部のデバイスに黄色の「!」が表示される。
 - デバイスがシスコのサポート マトリクスにない。
 - SCU GUI で一部のデバイス ドライバを選択していない。

- Windows セットアップが **BSOD 0x7B**(ブート デバイスがアクセス不可)で失敗する。
SCU GUI でブート コントローラのデバイス ドライバを選択していない。
- CMC の変更は、UCS-SCU ですぐに反映されない。
サーバが SCU によって起動されている場合、CMC を使用して仮想ディスクに対して行った変更は、SCU のユーザ インターフェイスですぐに表示されない場合があります。サーバをリブートして CMC と同期させます。
- 電源投入時セルフ テスト (POST) 中に、LSI 内蔵 MegaRAID と LSI 2008 コントローラの両方が検出されるが、LSI 2008 コントローラのみが UCS-SCU に表示される。
LSI 内蔵 MegaRAID と LSI 2008 は、UCS-SCU で同時にサポートされません。両方が存在する場合、LSI 2008 のみが検出されます。LSI 内蔵 MegaRAID を検出するには、コントローラを取り外します。
- SCU のインベントリが影響を受ける。
サーバに、GPT パーティションを使用した USB ドライブが接続されているかどうか確認します。接続されている場合は、USB ドライブを取り外し SCU をリブートするか、または GPT パーティションなしの USB スティックを使用するか再フォーマットします。
- インタラクティブおよび非インタラクティブ SCU で OS のインストールが失敗する。
仮想ディスク サイズが 2 TB を超えていると、OS のインストールが失敗して次のメッセージが表示されます。

Unable to install OS.

サイズが 2 TB 未満の仮想ディスクを作成します。